

理由① 身近にあった 有害鳥獣の隠れ家

野生鳥獣は本来非常に臆病で、すぐに隠れる場所があることが彼らにとっては必要です。農地周辺の耕作放棄地や山際の藪は彼らの「安全な隠れ家」となります。

隠れる所も多いし、ここなら安全に暮らせそう




エサと居場所を与えないことが重要

多 鳥獣被害

多くの鳥獣被害に共通する原因は「安全でエサがある」ことです。イノシシをはじめとする野生鳥獣はその本能に従い、「安全」で「エサ」のある場所を常に探して生活しています。農地や集落付近にこの2つの条件がそろう場所があると、野生鳥獣にとって非常に生活しやすい場所として認知され、その場所に執着するようになります。

何故増えた？

理由② 身近にあった 有害鳥獣のエサ

未収穫の果樹や放置された野菜、稲刈り後の「二番穂」等は野生鳥獣にとって立派な「エサ」となります。これらを適切に処理しないと彼らに「餌付け」していることになります。

ご飯にも困らないし、いい場所だ



鳥獣被害 対策の基本

今回のまとめ

鳥獣被害対策の基本的な考え方は、まずは野生鳥獣を「近づかせない」、次に農地等に「入らせない」、最後に被害を与える個体の「捕獲」となります。野生鳥獣にとって「安全でエサがある」場所が被害を生みます。つまり野生鳥獣にとって「危険でエサのない」集落づくりが出来れば被害は軽減されます。

この対策は、農業者だけで実施することは出来ません。集落全体の問題としてとらえる必要があります。町では野生鳥獣の生態等について研修会を開催するなど、被害軽減につながる支援を行なっているところです。今年度は、10月以降に研修会を開催する予定です。

次回は具体的な対策方法について掲載予定です。不明な点や対策方法について相談がある場合には、役場農業振興課までご連絡ください。

▼問い合わせ／舟形町農業振興課
☎(32) 0947

鳥獣被害を食い止めろ！

vol.1 被害の現状と対策の基本

有害鳥獣被害とその対策について、今年度広報で3回にわけてお知らせします。第1回となる今回は、「被害の現状と対策の基本」についてです。



近年の被害状況

近年、県内において有害鳥獣（イノシシ、クマ、サル等）の目撃報告の急増に比例し、農作物への被害が拡大しています。舟形町でも同様に農作物の被害が拡大し深刻な状況となっています。（※表1、2参照）

イノシシをはじめとする有害鳥獣からの被害を防止するためには、有害鳥獣を呼び寄せてしまう原因を取り除く必要があります。

平成27年から令和2年にかけて被害額は437千円から963千円に増加しています。

表1 年度別被害額

年度	被害額(千円)
H27	437
H28	457
H29	78
H30	246
R1	290
R2	963

単位:千円

表2 H27～R2合計被害額及び割合

品目	被害額(千円)	割合
稲	839	34.0%
大豆	518	21.0%
サトイモ	200	8.1%
ブドウ	228	9.2%
じゃがいも	100	4.0%
ソバ	347	14.0%
デントコーン	35	1.4%
栗	34	1.4%
ハチ	20	0.8%

